

国立大学法人名古屋工業大学の中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

名古屋工業大学は「工科大学構想」を掲げ、技術イノベーションと産業振興を牽引するにふさわしい高度で充実した教育研究体制を整備し、世界の工科大学との連携等により工科大学の世界拠点を目指している。また、異分野との融合による新たな科学技術を創成し、「ひとづくり」、「ものづくり」、「未来づくり」の教育研究理念を踏まえ、学長のリーダーシップの下に重点事項を掲げ、中期目標の達成に向け、鋭意、改革・改善に取り組んでいる。

中期目標期間の業務実績の状況は、「業務運営の改善及び効率化に関する目標」の項目で中期目標の達成状況が非常に優れているほか、それ以外の項目で中期目標の達成状況が良好又はおおむね良好である。業務実績のうち、主な特記事項は以下のとおりである。

教育については、TOEIC IPによる英語能力別クラス編成、「工学表現技術」科目における英語プレゼンテーション指導、アドミッションオフィスの機能向上、キャリア教育及び資格取得の支援等の取組を行っている。

研究については、環境調和セラミックス科学の世界拠点の研究の推進、学内の研究課題等を基にした大型外部資金の獲得、特許権の出願・権利化を早期かつ経済的に行うコア出願の実施等の取組を行っている。

社会連携・国際交流等については、ダブルディグリープログラム、ツイニングプログラム、アジア人財資金構想プログラムの開設、日本語準備教育を必要としない国費外国人留学生の優先配置を行うプログラムの実施等の取組を行っている。

業務運営については、教員及び事務職員の人事評価を本格実施し、職員評価については平成17年度から、教員評価については平成19年度から昇給等に反映させており、評価できる。また、異分野の研究交流の活発化等を図るため、学際的な教員組織である「領域」を創設するなど、組織改革に取り組んでいる。

財務内容については、外部資金の積極的な獲得に努め、研究企画院や産学官連携センター等による積極的な獲得に取り組んだ結果、受託研究、共同研究及び奨学寄付金による外部資金が増加してきている。

社会への説明責任については、広報活動の充実と活性化を図ることを目的として、広報プランを策定し、毎年度の広報計画に沿った広報誌の発行、ウェブサイト及び報道機関等への情報発信等に計画的に取り組んでいる。

その他業務運営については、環境に対応した取組として、課外活動施設屋上に、多孔質セラミックスを使用し建物内の温度上昇を抑制する実証試験を開始するなど、大学の特色を活かした取組が行われている。

2 項目別評価

I. 教育研究等の質の向上の状況

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のうち、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

(1) 教育の成果に関する目標

[評価結果] 中期目標の達成状況がおおむね良好である

[判断理由] 「教育の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標（2項目）のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「学業の成果」「進路・就職の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(2) 教育内容等に関する目標

[評価結果] 中期目標の達成状況がおおむね良好である

[判断理由] 「教育内容等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（11項目）のうち、2項目が「良好」、9項目が「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(3) 教育の実施体制等に関する目標

[評価結果] 中期目標の達成状況が良好である

[判断理由] 「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3項目）のすべてが「良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育の実施体制」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(4) 学生への支援に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3項目）のうち、1項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

3. 優れた点、改善を要する点、特色ある点

(優れた点)

- 中期計画で「国際共通言語である英語による自己表現及び異文化理解ができる能力」を学生に身に付けさせるとしていることについて、TOEIC IPによる英語能力別クラス編成のほか、現代的教育ニーズ取組支援プログラムに採択され、「工学表現技術」科目における英語プレゼンテーション指導、少人数の集中クラスを実施していることは、語学力の一層の向上につながっているという点で、優れていると判断される。
- 中期計画で「アドミッションセンター（仮称）」を平成17年度までに設置する」及び「工学を先導する魅力のある大学としての情報発信を充実させ、受験生の量と質を高める」としていることについて、工学教育総合センターの中にアドミッションオフィスを再編し機能が向上していること、及びオープンキャンパス参加者数・大学見学会対象高等学校数が着実に増加し、入学者の質が向上していることは、優れていると判断される。
- 中期計画「学内全施設の有効活用を推進するとともに、IT化に対応した設備を充実する」について、PKI（公開鍵基盤）技術を基盤とする統合認証システムを実現していることは、出欠確認の効率化等、学生や教職員の利便性を向上させている点で、優れていると判断される。
- 中期計画「職業意識を高めるための教育を行うとともに、学生の資格取得のための支援を充実する」について、キャリアサポートセンター等によるキャリア教育の実績により現代的教育ニーズ取組支援プログラムに採択されるなど、キャリア教育及び資格取得支援の取組が十分に機能していることは、優れていると判断される。

(II) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「研究に関する目標」に係る中期目標（2項目）のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

[評価結果] 中期目標の達成状況が良好である

[判断理由] 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3項目）のうち、1項目が「非常に優れている」、2項目が「良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(2) 研究実施体制等の整備に関する目標

[評価結果] 中期目標の達成状況がおおむね良好である

[判断理由] 「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標（6項目）のうち、1項目が「良好」、5項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

3. 優れた点、改善を要する点、特色ある点

(優れた点)

- 中期計画で「21世紀 COE プログラム「環境調和セラミックス科学の世界拠点」の研究」に取り組むとしていることについて、年間 250 編以上の学術論文を創出、多数の共同研究を実施し、また国際連携大学院としてのセラミックス科学研究教育院を設立し、さらに国際共同研究を推進していることは、優れていると判断される。
- 中期計画「国などによる競争的・戦略的大型プロジェクトの資金獲得へと発展する研究に組織的に取り組む」について、法人化後 4 年間で 7 件の学内研究推進経費・研究課題が 6 件の大型外部資金獲得（獲得金額 3 億 6,571 万円）に結実していることは、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「平成 15 年度に設置した「テクノイノベーションセンター」を通じて、研究の成果を知的財産の創出に結びつける」について、特許権の出願・権利化を早期かつ経済的に行うため、名古屋工業大学研究協力会や技術移転機関である中部 TLO と連携してコア出願を行っていることは、特色ある取組であると判断される。

(III) その他の目標

(1) 社会との連携、国際交流等に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

【判断理由】 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（1項目）が「良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

(1) 社会との連携、国際交流等に関する目標

[評価結果] 中期目標の達成状況が良好である

[判断理由] 「社会との連携、国際交流等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（7項目）のうち、2項目が「非常に優れている」、2項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

3. 優れた点、改善を要する点、特色ある点

(優れた点)

- 中期計画「外国人留学生については、多様な国・地域からの受け入れを図る」について、ダブルディグリープログラム、ツイニングプログラム、国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム、アジア人財資金構想プログラム等を開設し、留学生数が法人化時点の260名から330名に増加していることは、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「外国人留学生については、多様な国・地域からの受け入れを図る」について、国際貢献の一環として行っているアフガニスタンの戦後復興支援プログラムを実施し、専門教員の養成を支援していることは、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「外国人留学生については、多様な国・地域からの受け入れを図る」について、日本語準備教育を必要としない国費外国人留学生の優先配置を行う「高度研究者養成特別プログラム」、アジア人財資金構想「自動車工学スーパーエンジニア養成プログラム」を実施し、平成19年度にそれぞれ5名、10名の留学生を受け入れていることは、特色ある取組であると判断される。

II. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

- ① 運営体制の改善
- ② 教育研究組織の見直し
- ③ 人事の適正化
- ④ 事務等の効率化・合理化

平成 16～19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

- 人事評価のうち、教員評価については、2 年にわたる試行を行い平成 19 年度から本格実施し、評価結果を平成 20 年 1 月の昇給から反映させている。また、事務職員評価については、平成 17 年度から評価を導入し、評価結果を給与に反映させるとともに、総合的な判断に基づき昇任・昇給に反映させており、評価できる。
- 教員組織の特色ある取組として、異分野の研究交流の活発化等を図るため学際的な教員組織である「領域」を創設し、研究活動のための企画立案等を行う研究企画院を設置するなど組織改革に取り組んでいる。
- 異分野融合研究をさらに戦略的に進めるため、海外ではハーバード大学やジョーンズ・ホプキンス大学等との国際連携を行い、国内では医学部、薬学部を設置している名古屋市立大学との連携・協力に関する基本協定を締結している。
- 学部、研究科の効率的運営と教員の管理運営負担の軽減、教育研究時間の確保のため、教授会に代議員会を設置し、教員の教育研究時間の確保に努めている。
- 管理運営組織のスリム化・効率化に向けた体制整備として、従来あった 20 の各種委員会を見直し、課題ごとに企画院、本部、室等に再整理している。
- 業務改善等を推進するため、機器及びソフトウェアの一元化、IC カード認証化、全学共通のポータルサイトを稼働するなど電子事務局化に向け取り組んでいる。

【評定】中期目標の達成状況が非常に優れている

(理由) 中期計画の記載 40 事項すべてが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められるほか、教員及び事務職員の人事評価を本格実施し、処遇に反映させている取組が行われていること等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

- ① 外部研究資金その他の自己収入の増加
- ② 経費の抑制
- ③ 資産の運用管理の改善

平成 16～19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

- 外部資金の積極的な獲得に努め、研究企画院や産学官連携センター等が中心となり、外部資金の積極的な獲得に取り組んだ結果、平成 19 年度の受託研究、共同研究及び奨学寄付金による外部資金は 17 億 288 万円（対平成 15 年度比 9 億 6,167 万円増）となっている。
- 科学研究費補助金の増加に向け、説明会の開催、採択実績の公表と申請推奨、マニュアルの作成等に取り組んでおり、平成 19 年度の採択額は 5 億 1,417 万円（対平成 15 年度比 1 億 3,905 万円増）、申請率は 117 %（対平成 15 年度比 15 %増）となっている。
- 全学的な経費の節減に努め、平成 16 年度から平成 19 年度にかけて、点検保守業務契約及び運転監視業務の集約、エレベーター保守の複数年契約等 827 万円、節水等 3,559 万円、電気代 71 万円が節約されている。また、体育施設や講義室等の空き時間を利用した有料貸付により、平成 16 年度から平成 19 年度にかけて 4,810 万円の収入の増加に努めている。
- 中期計画における総人件費改革を踏まえた人件費削減目標の達成に向けて、着実に人件費削減が行われている。今後とも、中期目標・中期計画の達成に向け、教育研究の質の確保に配慮しつつ、人件費削減の取組を行うことが期待される。

【評定】中期目標の達成状況が良好である

(理由) 中期計画の記載 10 事項すべてが「中期計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(3) 社会への説明責任に関する目標

- ① 評価の充実
- ② 情報公開等の推進

平成 16～19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

- 自己点検・評価項目の中に、改善・工夫すれば効果等が上がると考えられる点を設けており、次年度の点検・評価で、どのように改善・工夫を行ったか、確認する仕組みにしている。
- 広報活動の充実と活性化を図ることを目的として、広報プランを策定し、毎年度の広報計画に沿った広報誌の発行、ウェブサイト及び報道機関等への情報発信等に計画的に取り組んでいる。

【評定】中期目標の達成状況が良好である

(理由) 中期計画の記載 5 事項すべてが「中期計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

- ① 施設設備の整備・活用等
- ② 安全管理

平成 16～19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

- 施設の有効活用に関する規程を制定し、全学的視点に立った施設運営、施設の点検・評価に基づく効率的な使用を推進している。
- 施設の新増築や既存施設の大規模改修を行った建物について、共用スペースを確保し、オープンラボラトリーとして活用している。また、スペースチャージ制度で徴収した使用料（毎年度約 2,000 万円）を財源として全学の施設を対象に予防的修繕を実施している。
- 環境に対応した取組として、緑化壁や屋上に多孔質セラミックスを使用し建物内の温度上昇を抑制する実証試験を開始するなど、大学の特色を活かした取組が行われている。
- 防災マニュアルに基づいた防災訓練を実施し、訓練結果を分析してマニュアルの見直し等を行うとともに、防災用備蓄品を整備している。
- 危険物講習会の開催や消防署と実施した共同訓練の実績等、大学における危険物管理等の取組について、模範となる優良危険物保安事業所として、名古屋市昭和消防署長から表彰されている。
- 研究費の不正使用防止のため、公的研究費の不正に係る手続き等に関する取扱規程の整備、公的研究費の管理・監査の適正化推進マニュアルの整備、検収センター等を設置している。

【評定】 中期目標の達成状況が良好である

(理由) 中期計画の記載 15 事項すべてが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。